北海道

アイヌ民族文化研究センターだより NO.33

2010年９月

●もくじ

・山田秀三文庫の資料から 小樽の地名調査関係資料 …… 1
・企画展「アイヌ語地名を歩く」を開催しました …… 2
・フィールドからデスクから 秋田県にかほ市象潟の「藻汐草」… 3
・公開している資料から サハリン調査での写真資料 …… 4
・寄贈を受けた資料…… 6
・お知らせ…… 8

山田秀三文庫の資料から

小樽の地名調査関係資料

写真①

写真②

小樽とその周辺は、山田秀三が北海道で行ってきた地名調査の中でも、もっとも早くから取り組んできた地域の一つである。

当研究センターの山田秀三文庫の写真資料の中で、北海道での地名調査に関する写真として確認できるもっとも古いものは、1952（昭和27）年頃に小樽や余市で撮影されたフィルムである。その後、晩年に至るまで、山田は何度もこの地を訪れ、各地を廻っている。

写真①［YM0600-01-05］は、このような小樽での地名調査の資料の一つで、国土地理院５万分の１地形図「小樽東部」「銭函」「小樽西部」「余市」の４枚を貼り合わせたものである。古地図や古い文献の記述が転記され、さらに現地調査の記録がびっしりと書き込まれている。ここにはその中の小樽市銭函付近の部分を掲載した。

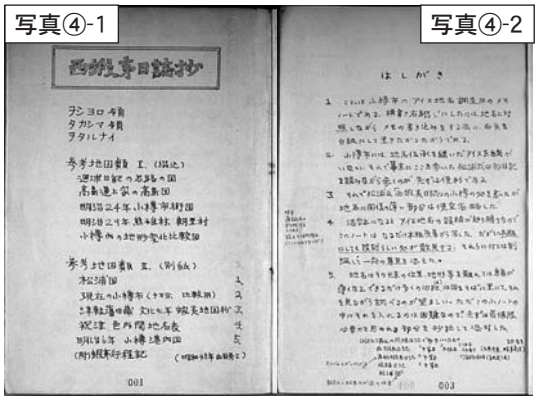
写真②［YP1302-104-07］は、1952（昭和27）年に、洞窟の遺跡で有名な余市の畚部にて撮影された写真。道路（国道5号線）に立っているのが山田秀三。

山田秀三は、多くの地域で地元の郷土史家と交友を持っている。小樽でも、北海道史研究者として知られる越崎宗一（1901～1977）氏、忍路の鰊漁場の網元の家に育ち、郷土史家でもあり忍路の鰊漁歌の保存にも熱心だった須摩正敏（1919～1990）氏らと、早くから知己の仲となっている。

写真③

実際、山田文庫の小樽関係の資料の中には、越崎宗一氏ら小樽の人びとから提供されたり教示を受けたりした資料がたくさん含まれている。また、1973年と1979年には地元の小樽史談会の求めに応じて小樽でアイヌ語地名に関する講演を行っている。

写真④-1



写真④-2

写真③［YM0597-01］は、越崎宗一が収集し保存していた明治初年の小樽の古地図を山田が書き写したもの。

写真④［YF0512］は、小樽史談会での講義のときのテキストになったと思われる資料。

［企画展］

アイヌ語地名を歩く －山田秀三の地名研究から－2010・小樽／せたな」を開催しました

前号でもお伝えしたとおり、アイヌ語地名研究の第一人者・故山田秀三氏の研究資料（当センター所蔵「山田秀三文庫」）の紹介を中心とした展示を、小樽市（小樽市総合博物館運河館）とせたな町（せたな町情報センター）で開催しました。

会期中は、多くの皆様のご来場をいただき、またアンケートにも多数ご協力いただき、ありがとうございました。

●小樽市総合博物館運河館での展示のようす

●せたな町情報センターでの展示のようす

また、企画展の関連事業として、各講師による講座や講演会、忍路鰊場の会による鰊漁歌の公演なども開催し、計307名の来場をいただきました。

●講演「小樽・後志からアイヌの歴史と文化をみる」
（９月４日　於 小樽市運河プラザ）
講師：佐藤知己氏（北海道大学大学院教授）（写真左）
講師：田島佳也氏（神奈川大学教授）（写真右）

●講演「せたなから、地名・歴史・文化を考える」
（９月11日　於 せたな町民プラザ）
講師：高木崇世芝氏（アイヌ語地名研究会）
講師：桜庭　　博氏（せたな町文化財保護委員）
講師：佐々木利和氏（北海道大学教授）
講師：本田　優子氏（札幌大学教授）

●お話と公演「忍路鰊場の会と山田秀三」
（９月18日　於 小樽市総合博物館運河館）
出演：須摩トヨ氏、三浦一郎氏、ほか忍路鰊場の会

フィールドからデスクから　秋田県にかほ市象潟（きさかた）の「藻汐草（もしほぐさ）」

江戸時代に記録されたアイヌ語の語彙集などの資料が、アイヌ語・アイヌ文化の研究にとってたいへん重要なものであることは、これまでに多くの研究者が指摘してきたことであり、この『センターだより』紙上でも、かつて佐藤知己さんが、加賀家文書という資料に即して述べられたことがあります[*1]。

アイヌ語・アイヌ文化研究における基礎的な資料の重要性は、私自身も切実に感じているところであり、ここ数年、関心を持って少しずつ調べてきた資料が、秋田県にかほ市の象潟郷土資料館が所蔵する「藻汐草」です。この度、北海道立アイヌ民族文化研究センターがせたな町で開催した講演会（２ページ参照）で、この資料について今までわかってきたことをお話させていただく機会がありました。以下に、改めてそのあらましをまとめ、この資料についての取り敢えずの中間報告とさせていただきます。

＊　＊　＊　＊　＊

江戸時代のアイヌ語資料の中でも、上原熊次郎（生没年未詳）による『もしほ草』[*2]（1792年）は、辞書のような体裁を整えて編まれた最初の文献であり、収録している語彙数の多さやアイヌ語資料としての確からしさなどにおいて、極めて重要な位置を占めるとされています[*3]。この『もしほ草』は、板本（版木に彫って印刷された書物のことをいいます）として当時の社会に流布し、いくつもの写本や類本（類似した内容の本）が作られたことが知られています。写本・類本の中にもいろいろなものがありますが、中には、『もしほ草』をもとに新たにその地域の語彙や作者のアイヌ語の知識が付け加えられ、その写本・類本じたいが新たなすぐれた資料となっているものもあります。ここで紹介する象潟の「藻汐草」もその一つだと思います。

私が、象潟の郷土資料館でこの「藻汐草」を初めて知ったのは、今から７年ほども前のことです。当時は個人所蔵だったため原本は資料館にはありませんでした。そのため、学芸員の方が持ってきて下さったコピー本を拝見したのですが、ページをめくってみたときの興奮を、今でもよく覚えています。

表題こそ同じ「藻汐草」ですが、これまでに知られている写本・類本と比べても、語彙数がかなり多く、特にアイヌ語・日本語の対訳文が豊富に収録されていたのです。

その後何度か象潟を訪れて所蔵者のお話を伺ったり、私なりに周辺の資料を調べる中で、いろいろなことがわかってきました。例えば、これを作成したのはフトロ（せたな町太櫓）の漁場を経営していた第三代森市右衛門＝守屋利八郎潔経（1828～1890）という人であること、この人が『もしほ草』の写本にフトロのアイヌ語を書き足していくことによって、この本が成立したと推定されること、成立年代はおおよそ安政年間（1854～1860）であることなどです。江戸時代のアイヌ語資料で、作者や作成された地域が特定できる例はそう多くはなく、しかも、従来ほとんど確認されていない日本海沿岸地域のアイヌ語がこれほどたくさん記載されているとなれば、やはりとても重要な資料だと思います。

＊　＊　＊　＊　＊

この「藻汐草」はすでに、同館の1996 年の特別展などでも展示・紹介されてきましたが、それが上に述べたような特色と意義を持つ資料だということは、これまでほとんど明らかにされてきませんでした。かく言う私自身の調査も、まだまだ緒についたばかりです。これから、先ずこの資料についての基礎的調査―解読、翻刻など―を進めるとともに、保存と利用へ向けた条件をつくっていきたいと考えています。私一人でできることではなく、にかほ市教育委員会をはじめ多くの先生方のご指導やご支援をいただきながら、進めていきたいと思います。

本田　優子（ほんだ・ゆうこ）
（札幌大学文化学部教授／研究センター非常勤研究職員）

＊１　佐藤知己「「加賀家文書」について」『アイヌ民族文化研究センターだより』第11号、1999年９月

＊２　『もしほ草』には、1792年に一冊本で刊行された『もしほ草』と、後に二冊に分冊された『蝦夷方言藻汐草』（1804年）があることがわかっています。ここでは、便宜的に、それらをまとめて『もしほ草』としました。

＊３　佐々木利和・田中聖子「近世アイヌ語資料について－とくに『もしほ草』をめぐって―」『松前藩と松前』第24号、松前町史編集委員会、1985年

公開している資料から

久保寺逸彦文庫写真資料 北海道とサハリンでの録音と撮影－「金城朝永（きんじょうちょうえい）日記」から－

当研究センターでは、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」、職員による採録資料などを、平成15年度から順次公開しています。このコーナーでは、これまでに公開した資料の中からいくつかを取り上げ、その特徴や意義、あるいは関連する情報などをお知らせしています。

アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者として知られる**久保寺逸彦**（1902～1971）氏は、1934（昭和９）年から1936年にかけて、北海道と樺太で大規模な調査を行っています。この調査の際に久保寺氏は、当時まだ珍しかった録音機を用いて物語や音楽を録音し、16ミリフィルムの動画や、ガラス乾板などの写真を撮影しています。これらは、アイヌ文化の調査に際して日本国内の研究者が行った、音と映像による最初のまとまった記録と考えられます。

当時の録音機材や映像・写真機材は現在と違い、かなり大きく重いものでした。当時久保寺氏が使用した機材はすべて残っているわけではありませんが、調査の記録や、撮影写真に写っているものから、機材の一部は推測できます。

＊　＊　＊　＊　＊

1935（昭和10）年の北海道とサハリンでの調査に同行した**金城朝永**＊（1902～1955）氏は、その日記（「金城朝永日記」※）の中で、このときの録音、録画、撮影機材についてしばしば触れています。

〈７月29日：上野駅から北海道に向けての出発時〉

（略）今度の旅は久保寺氏に同行。北海道・樺太のアイヌ部落歴訪、一月の旅である。

小型のトランク一個を携へるのみ。（略）久保寺氏尊父・令妹にお嬢さん二人見送りに同乗して来る。携帯品、録音機四個、トランク、リュックサック。

〈７月30日：虻田に到着〉

（略）荷物はリヤーカー（宿のもの）を借りて、三人で運ぶ

〈８月５日：小樽に到着〉

（略）荷物は便利屋のリヤーカーに託し（略）

〈８月12日：旭川での調査時〉

（略）録音機を積み込み自動車二台にて（略）

＊沖縄県那覇市生まれの言語学者。琉球方言の研究のほか、沖縄の民俗・文学・歴史などを幅広く研究した。業績は『金城朝永全集』（上・下）（1974年、沖縄タイムス社）にまとめられている。

このように、大きさはわかりませんが、上野では荷物として録音機が４個になっていたことがわかります。その後も搬送のために旅館からリヤカーを借用したり、便利屋を雇ったり、自動車を用いていることがわかります。

この他にも、調査地が変わるたびに録音機を運ぶことがしばしば記されていますから、金城氏には機材の搬送が大仕事であったことが強く印象に残ったのではないかと思われます。大きく重い機材を持ち運びながらの調査行は、相当な苦労があったと思われます。

また、機材を運ぶ苦労だけでなく、録音機材を動かす電気の確保もどこでもできたわけでないことが書かれています。さらに、機材の準備や、後片付けが大仕事であったことがうかがえる記述もあります。

〈７月30日〉

（略）録音機のテスト。旅館では、ここ丈、ラヂオがある。そしてラヂオのある家丈昼間送電があるので、この宿に決めたのである。テスト好調。

〈８月２日〉

（略）吹き込み後、四人で手分けして二十分ほど片付ける。

〈８月12日：旭川での調査時〉

（略）ラヂオ用の電気を録音機に接続。

写真１　1935年、旭川での録音風景。中央に立っている白いものがマイクで、大理石を用いており、ヘッド部分だけでも約２キロある。

また、この荷物の中には、録音用のレコード盤も含まれていたものと思われます。レコード盤も枚数があると重量が増えますし、記録には途中で入手した様子がありませんから、東京からの荷物に含まれていたと思われます。

＊　＊　＊　＊　＊

録音機材のことに比して、撮影機材については、『金城朝永日記』にはあまり書かれていません。録音機材に比べて写真機材は小さく、搬送にはそれほど気を使わなくてもよかったものと思えます。また、カメラはこの当時かなり普及していたことがうかがえる記述もあります。

〈７月31日〉

昨晩映した写真出来。写真屋で久保寺・今野氏と今日撮影の現像を頼む。この町にはこの一軒しか写真屋はなかったが、今年一軒増えたそうだ。現像六枚焼付三枚で一円十銭。

と、撮影した写真をすぐに現像したことや、写真屋が増えていることが書かれていますし、具体的な金額も記載されています。フィルムの入手や現像には、あまり困らなかったと思われます。

＊　＊　＊　＊　＊

久保寺氏は、この調査での写真撮影には２種類のフィルムを用いています。一つは「**手札判**（てふだばん）」と呼ばれる8×10.5センチのガラス乾板です。ガラス乾板とは、文字通りガラスの表面に乳剤を塗布したもので、大判でも安定しているため、一部では最近まで使われていました。久保寺氏の撮影したガラス乾板も多くは安定していますが、ごく一部には乳剤の剥離（はくり）があります。

もう一つは、**ヴェスト判**と呼ばれる4×6.5センチのフィルムです。金城氏の日記の中には、カメラの名前と思われるものが記されています。

〈８月29日：網走〉

（略）荷物を赤帽にあづけ、ウェストの写真機一個を携へ、（略）

写真２　1935年、サハリンの多蘭泊での撮影。海岸で漁の作業風景を見る久保寺氏（＝中央の白の上下服の人物）の腰にカメラバッグが下がっている。

とあり、1912年にコダック社が発売してから昭和初期にかけて流行った、**ヴェスト**と呼ばれるカメラを用いていたことが分かります。

このカメラは折りたたむと小さくなり、持ち運びに便利であったことから、スナップ的な撮影に用いたようで、風景などが多く写っています。ただ、フィルムの感度が悪いため、写りはあまりよくありません。

しかし、当時のカメラは、露出からの露光時間をすべて決めてからの撮影ですから、それなりの技術が必要です。久保寺氏も金城氏も、写真撮影に関しては、撮影情報などのメモなどを見るとかなりの技術を持っていたようです。

＊　＊　＊　＊　＊

久保寺氏が調査に用いた録音・撮影機材は、現在のものに比べて性能は大きく劣ります。そのため、雑音の多い録音や、不鮮明な写真もあります。

しかし、聞き取りにくい録音であっても、多少鮮明でない画像でも、そこに記録された内容は、当時のアイヌ文化を知る上でかけがえのない貴重なものとなっています。

久保寺逸彦文庫写真資料より
写真１：KP1103-010　　写真２：KP1209-022

※文中の引用は、古原敏弘編「金城朝永日記（抄）」（『北海道立アイヌ民族文化研究センター紀要第７号』所収、2001年）による。

寄贈を受けた資料（2010年3月～2010年8月）

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

アイヌ語地名研究会
・アイヌ語地名研究会会報　第39号
（財）アイヌ文化振興･研究推進機構
・第13回　アイヌ語弁論大会　報告書　イタカン　ロー（アイヌ語で話しましょう）
・パナンペとペナンペ　うみのカムイによばれる
・パナンペとペナンペ　うみのカムイに　よばれる
・アイヌ民族：歴史と現在　未來を共に生きるために〈改訂版〉　〔小学生用〕
・アイヌ民族：歴史と現在　未來を共に生きるために〈改訂版〉　〔中学生用〕
・アイヌ民族：歴史と現在　未來を共に生きるために　【教師用指導書】
・平成22年度「アイヌ語ラジオ講座」テキスト　Vol.2
アイヌ民族共有財産裁判を支援する全国連絡会、少数民族懇談会
・アイヌ民族の権利と今後の運動を考える学習集会記録
青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ
・青森県叢書　平成二十一年度　西浜と外ヶ浜の民俗
青森県教育委員会
・The Group of Jomon Archaelogical Sites in Aomori Prefecture〔青森県の縄文遺跡群〕
青森県民俗の会（青森県立郷土館学芸課内）
・シンポジウム　『東北のオシラ神を探る』研究発表資料集
秋田県公文書館
・秋田県庁文書群目録　第７集
・秋田県公文書館所蔵古文書目録第６集　資料群目録１　秋田県庁旧蔵古文書（秋田藩関係文書１）
・秋田県公文書館だより　第25号
・秋田県公文書館研究紀要　第16号
秋田県立博物館、秋田県立博物館管江真澄資料センター（編）
・真澄　№19、21～26
・秋田県立博物館特別展図録　『北方文化のかたち・アイヌ文化展』
・秋田県立博物館展示案内
株式会社アダック
・てんとう虫　第42巻第４号　通巻第546号
厚真町教育委員会
・厚真町　厚幌１遺跡(2)・幌内7遺跡(1)
石井正己
・韓国と日本をむすぶ昔話：国際化時代の研究と教育を考えるために
石狩市企画経済部秘書広報課、石狩市教育委員会、いしかり砂丘の風資料館
・エスチュアリ　いしかり砂丘の風資料館だより　No.38、39、40
石黒克彦
・管江真澄を歩く：時代と旅から読み解く生涯
・管江真澄と霊場　太田権現：えみしのさえきの旅から
伊能忠敬記念館
・伊能忠敬記念館年報　第11号
今金町教育委員会
・今金町文化財調査報告６　宮島１砂金採掘跡
浦幌町立博物館
・浦幌町立博物館年報　第10号
・浦幌町立博物館紀要　第10号
2010年APEC貿易担当大臣会合北海道・札幌実行委員会
・APEC HOKKAIDO札幌 NEWS LETTER Vol.3
エコミュージアムおさしまセンター
・３モア通信　Vol.7
恵庭市教育委員会
・恵庭市詳細分布調査報告書　柏木川9・8・7・13遺跡
ＮＨＫ北海道本部（編）
・北海道地名誌
愛媛県歴史文化博物館
・愛媛県歴史文化博物館資料目録第３集　菊山隆氏所蔵資料
榎森進（研究代表者）
・15～19世紀、列島北方地域とアムール川最下流域の諸民族との交流に関する研究
大迫町教育委員会
・早池峰文化　第４号
小川早苗（編）
・アイヌ民族もんよう集　刺しゅうの刺し方・裁ち方の世界
小樽市総合博物館
・小樽市総合博物館紀要　第23号
小樽商科大学
・言語センター広報　Language Studies　第18号
・小樽商科大学史紀要　第４号
小野哲也
・刀子からマキリへ：考古学的アプローチによる
帯広市教育委員会
・帯広叢書　第63巻　吉田巌資料集29
帯広百年記念館
・帯広百年記念館紀要　第28号
学習院大学史料館
・ミュージアム・レター　№12、13、14
・学習院大學史料館紀要　第16号
神奈川大学日本常民文化研究所
・民具マンスリー　第43巻第1、2、3号
上士幌町ひがし大雪博物館
・上士幌町ひがし大雪博物館研究報告　第32号
川村湊（編）
・現代アイヌ文学作品選
北の縄文世界実行委員会
・北の縄文世界　土偶からのメッセージ
北村清彦（編著）
・北大文学研究科ライブラリ２　北方を旅する　人文学でめぐる九日間
キャンパス・コンソーシアム函館
・高田屋嘉兵衛と近代経営　函館学ブックレット№5
・中世史の中の函館　函館学ブックレット№6
・函館八景扇面図　考　函館学ブックレット№7
・江戸幕府と蝦夷地・函館　函館学ブックレット№8
・箱館開港：みなとが語る函館の歴史　函館学ブックレット№9
・函館商業学校と地域商業の近代化　函館学ブックレット№10
・函館と近代アイヌ教育史：谷地頭のアイヌ学校の歴史から　函館学ブックレット№11
九州歴史資料館
・九歴だより　№31
銀の滴講読会（編）
・遠島タネランケ氏の伝承　アイヌ語虻田方言資料
釧路公立大学
・釧路公立大学紀要　人文・自然科学研究　第22号
釧路市立博物館
・釧路市立博物館紀要　第33輯
・釧路市立博物館報　№400～405
群馬県立文書館
・群馬県立文書館　文書館だより　第47号
高知県牧野記念財団
・高知県立牧野植物園だより　№41、42
・高知県立牧野植物園年報　第９号（2009）
神戸市立博物館
・博物館だより　№97
・神戸市立博物館年報　№25　平成20年度
國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター
・大場磐雄博士資料目録　Ⅱ
国学院大学北海道短期大学部
・国学院短期大学紀要　第26巻
国際縄文学協会
・縄文　Vol.21
国立日高青少年自然の家
・平成21年度企画事業　先人の知恵から学ぶ生活体験教育『ひだかモシリ零年』新しいぼくたちへの出発
国立民族学博物館
・月刊みんぱく　第34巻第３～９号
・国立民族学博物館研究報告　34巻４号
・民博通信　№128
・企画展　水の器〔広報パンフレット〕
コスモメディア
・北海道生活　Vol.16
コブタン文学会
・コブタン　№33
桜木紫野ほか
・神謡
札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部
・〔札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部〕紀要　第40号
札幌学院大学学芸員課程
・札幌学院大学学芸委員課程年報　23
札幌市文化資料室
・札幌市文化資料室研究紀要　公文書館への道　第２号
・文化資料室ニュース　第10、11号
札幌市文化資料室
・K518遺跡　第２次調査　札幌市文化財調査報告書88
・S228遺跡　札幌市文化財調査報告書89
・K113遺跡　第３次調査　札幌市文化財調査報告書90
札幌大学
・札幌大学附属総合研究所研究叢書１　伝承から探るアイヌの歴史
・シンポジウム＆公開講座　アイヌ文化研究の今　アイヌのモノと技の世界
・札幌大学埋蔵文化財展示室だより　札大ミュゼ　第１号
沙流川歴史館
・沙流川歴史館年報　第11号
・沙流川歴史館だより　№36、37
シーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート代表者会議
・高く評価された業績　アイヌ酋長　辨開凧次郎物語　シーニックかるたより
滋賀大学経済学部附属史料館
・滋賀大学経済学部附属史料館　研究紀要　第43号
標津町教育委員会
・史跡　標津遺跡群　伊茶仁カリカリウス遺跡
・標津川河岸遺跡
斜里町立知床博物館
・知床博物館第31回特別展図録　斜里川の自然
・知床博物館研究報告　第31集
・博物館のひろば　№102、103
城西国際大学物質文化研究センター
・物質文化研究　第７号
世界人権宣言大阪連絡会議
・世界人権宣言大阪連絡会議ニュース №330
世界人権問題研究センター
・2008年度講演録　講座　人権ゆかりの地をたずねて
・グローブ　№61、62
・〔世界人権問題研究センター〕研究紀要　第15号
・2009年度　世界人権問題研究センター年報
先住民族の10年市民連絡会
・先住民族の10年News　第162号～166号
創価大学社会学会
・ソシオロジカ　第34巻第１・２号　通巻55号
竹内運平
・北海道史要〔復刻版〕
竹ヶ原幸朗
・竹ヶ原幸朗研究集成第1巻　教育のなかのアイヌ民族　近代日本アイヌ教育史
・竹ヶ原幸朗研究集成第2巻　近代北海道史をとらえなおす　教育史・アイヌ史からの視座
田才雅彦
・チャシ　２〔コピー〕
伊達市教育委員会
・有珠善光寺２遺跡発掘調査概報
・有珠善光寺２遺跡発掘調査報告書
千歳市
・『新千歳市史』編さんだより　志古津　11号
・新千歳市史　通史編　上巻
千葉大学ユーラシア言語文化論講座
・千葉大学ユーラシア言語文化論集　第12号

東京外国語大学
・ＡＡ研北東アジア研究第2巻　樺太アイヌの民話（ウチャシクマ）ウェネネカイペ物語３編
・樺太アイヌの民話　ウェネネカイペ物語３編
・語学研究所論集　第15号
東京都江戸東京博物館
・江戸東京博物館NEWS　Vol.69、70
・東京都江戸東京博物館研究報告　第16号
・東京都江戸東京博物館資料目録　動物編(ネコ)
東京都写真美術館
・江戸東京博物館NEWS　Vol.70
・肖像　ポートレイト写真の180年
東北芸術工科大学東北文化研究センター
・東北文化友の会会報　まんだら　第43、44号
・季刊東北学　第23、24号
東北大学東北アジア研究センター
・東北大学東北アジア研究センターニューズレター　CNEAS　第43、44、45号
・東北アジア研究　第13、14号
・東北アジア　アラカルト　第20号　ロシアの北太平洋進出と日本：『ロシア領アメリカの歴史』より
・東北アジア　アラカルト　第21号　シベリア通信２　2004年－2008年
・18～19世紀仙台藩の災害と社会　別所万右衛門記録　東北アジア研究センター叢書　第38号
・ロシア史料にみる18～19世紀の日露関係　第５集　東北アジア研究センター叢書　第39号
東北電力広報・地域交流部
・白い国の詩　通巻第608号
東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　年報１　2009
遠野物語研究所
・『遠野物語ゼミナール』2008講義記録　神仏・自然・人間の共生　神々のふるさとを歩く
富樫利一
・維新のアイヌ　金成太郎
とかちエテケカンパの会
・とかちエテケカンパの会だより　第８号
苫小牧駒澤大学
・環太平洋・アイヌ文化研究　第７号
苫小牧市博物館
・〔苫小牧市博物館〕館報　第７号(平成20年度)
・苫小牧市博物館だより　№59
中川裕
・アイヌ語の向こうに広がる世界　シリーズこの人に会いたかった５
長野県立歴史館
・長野県立歴史館　研究紀要第16号
・あの世への想い：日本人はどのように埋葬されてきたか
・長野県立歴史館たより　Vol.62、63、64
中本ムツ子
・中本ムツ子のウウェペケレ　カンナフチ・ヤイェイソイタゥ
名張市人権・同和教育推進協議会
・2009年度研究テーマ　アイヌの人々の現在〔ダイジェスト版〕
・2009年度研究テーマ　アイヌの人々の現在
名寄市北国博物館
・北国研究集録　第12号
奈良県立民俗博物館
・奈良県立民俗博物館だより　Vol.36　№1
南山大学人類学博物館
・南山大学人類学博物館紀要　第28号
日本民俗音楽学会
・日本民俗音楽学会会報　第33号
函館市教育委員会
・垣ノ島遺跡
市立函館博物館
・市立函館博物館館報サラニップ　№49
・市立函館博物館研究紀要　第20号
林昇太郎（故林昇太郎氏遺作論集刊行会）
・アイヌ絵とその周辺　林昇太郎美術史論集
パロル舎
・The Ainu and the Bear：The Gift of the Cycle of Life
・The Ainu and the Bear
反差別国際運動日本委員会
・IMADR-JC通信　№162、163
福井県立歴史博物館
・龍：その多様な信仰と意匠
・エコロジースタイル　人と木の物語
・ミュージアムスタイル　Vol.5
藤女子大学日本語・日本文学会
・藤女子大学国文学雑誌　82
仏教大学文学部
・文学部論集　第94号
船橋市郷土資料館
・船橋市郷土資料館　資料館だより　第94、95号
・くらしの道具　台所・住まいの道具編
部落解放・人権研究所
・研究所通信　№373
振内自治会
・郷土史ふれない
文化学園図書館
・図書館だより　№150
別海町郷土資料館
・別海町郷土資料館だより　№123～128
勉誠出版
・アジア遊学128　古代世界の霊魂観
北翔大学短期大学部
・北翔大学短期大学部研究紀要　第48号
北海学園大学
・北海学園大学　学園論集　第142、144号
北海道アイヌ協会／北海道ウタリ協会
・平成15年度　アイヌ語指導者研修会講義録
・先駆者の集い　第118、119号
北海道開拓記念館
・内田家資料目録・２　北海道開拓記念館一括資料目録　第39集
・北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史　北方文化共同研究報告
・北海道開拓記念館研究紀要　第38号
・北海道開拓記念館調査報告　第49号
・北海道開拓記念館要覧　平成21年度
・北海道開拓記念館だより　Vol.40 №1
・北海道開拓記念館第66回特別展　どんくりコロコロ　どんぐりからつながる多くのいのち
北海道環境財団
・北海道環境財団月刊ニューズレター　TGAL　№148
北海道教育委員会
・平成21年度　アイヌ民俗文化財調査報告書(ユーカラシリーズ　34）アイヌ英雄叙事詩　金の小さな耳輪
・平成21年度　アイヌ民俗文化財調査報告書(ユーカラシリーズ　35）六十本の柱の家
・平成21年度　アイヌ民俗文化財調査報告書(ユーカラシリーズ　36）川口ぴとのヤイラプ
・平成21年度　アイヌ民俗文化財調査報告書　民俗技術調査２（山菜採集技術）
北海道大学アイヌ・先住民研究センター
・北海道大学アイヌ・先住民研究センター叢書　アイヌ研究の現在と未来
・アイヌ文化に関する研究の推進・連携等体制構築の検討事業　報告書
・アイヌ文化に関する研究の推進・連携等体制構築の検討事業　報告書　資料編
・アイヌ文化に関する研究の推進・連携等体制構築の検討事業　報告書〔CD-ROM〕
・現代アイヌの生活と意識　2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書
北海道大学大学院教育学部・教育学研究院
・教育史・比較教育論考　第20号
北海道大学大学文書館(編)
・北海道大学大学文書館年報　第５号
北海道大学総合博物館
・北海道大学総合博物館ニュース　21号
・北海道大学総合博物館企画展示図録　マキシモヴィッチ・長之助・宮部
・アラスカの恐竜　アジアをめざした生命
北海道大学北方研究教育センター
・知里真志保　人と学問
北海道農政部ほか
・平成22年　農業新技術発表会要旨
北海道文化財保護協会
・文化情報　第318号～321号
北海道埋蔵文化財センター
・幌延町・豊富町　音類（おとんるい）竪穴群Ⅱ　重要遺跡確認調査報告書　第７集
・テエタ　北海道埋蔵文化財研究センターだより　第24号
・北海道埋蔵文化財センター　年報11　平成21（2009）年度
・白滝遺跡群Ⅹ　北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第263集
・千歳市オルイカ２遺跡(3)　北海道埋蔵文化財センター調査報告書第267集
・千歳市アンカリトー7遺跡　アンカリトー9遺跡　北海道埋蔵文化財センター調査報告書第268集
・千歳市梅川４遺跡(2)　北海道埋蔵文化財センター調査報告書第269号
・富良野市学田三区２遺跡　学田三区３遺跡　北海道埋蔵文化財センター調査報告書第270号
・下川町サンル４線遺跡(2)　北海道埋蔵文化財センター調査報告書第271号
北海道立近代美術館ほか
・紀要　1998-99
・紀要　2000-01
・紀要　2002-04
・紀要　2005
・紀要　2006
・紀要　2007
・紀要　2008
・紀要　2009
北海道立総合研究機構　環境・地質研究本部　地質研究所
・北海道立地質研究所年報　平成21年度
北海道立北方民族博物館
・第24回北方民族文化シンポジウム報告書　現代社会と先住民文化　観光、芸術から考える　1
・北方民族博物館だより　№76
・北海道立北方民族博物館研究紀要　第19号
北海道立文書館
・北海道立文書館所蔵資料目録21　北海道関係写真資料目録
北方圏センター
・季刊北方圏　第145号
宮武公夫
・アジアにおける博覧会の研究　ヒトの展示を通して
明治図書出版
・最新　公民資料集
盛岡市先人記念館
・盛岡市先人記念館だより　№44、45
森町教育委員会
・森町埋蔵文化財調査報告書第18集　鷲ノ木遺跡Ⅴ
ヤイユーカラの森
・Yay Yukar Park　65、66、67
山本命
・北海道の名付け親　松浦武四郎：アイヌ民族と交流した伊勢人の生涯
余市水産博物館
・余市水産博物館研究報告　第13号
羅臼町郷土資料室
・続・羅臼町の地名について

センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

９月までに、次の行事の開催・参加を行いました。多くの皆様にご来場をいただき、ありがとうございました。

詳細は、センターのウェブサイトでも紹介しています。

■「2010サイエンスパーク」に参加しました

８月11日、北海道・独立行政法人科学技術振興機構（JST）・地方独立行政法人北海道立総合研究機構の三者の共催による「2010サイエンスパーク」が、サッポロファクトリー（札幌市中央区）で開催され、当研究センターも例年どおり参加しました。展示ブースでは今年も、小学校中学年を主な対象としてアイヌの楽器「ムックリ」の鳴らし方の体験指導を行い、好評を博しました。

当研究センターの展示ブース

ムックリの鳴らし方を子どもたちに指導

■平成22年度企画展

「アイヌ語地名を歩く　山田秀三の地名研究から　2010・小樽／せたな」を開催しました

２ページでもお知らせしたとおり、小樽市で８月28日～10月３日、せたな町で９月11日～26日に企画展を開催しました。

開催中のようすなどは、２ページをご覧ください。

■ホームページのリニューアル進行中

前号でお知らせしたとおり、今年の３月から、研究センターのホームページのリニューアル作業を開始しています。

既に３月中にホームページのアドレスを変更し、同月末にはトップページの画面のデザインを一新するとともにサイト内検索の機能を加えました。また、一部の論文だけですが、研究センターの「研究紀要」に掲載している論文について、ＰＤＦファイルによるホームページ上への掲載を開始しました。ＰＤＦファイルの掲載は今後も引き続き増やしていく予定です。

４月以降は、公開資料に関する情報量を増やし、新たに山田秀三文庫の文書資料についても公開資料の概要を掲載しました。９月～10月には、トップページ以外のページのデザインやリンクを更新します。また、地域やテーマごとに公開資料を検索できるページを設け、アイヌ文化に関する学習・研究のための記事を新たに掲載するなど、機能や内容の充実に努めていきます。

多くの方々のご利用をお待ちしています。

なお、ホームページの更新をメールでお知らせするサービスを一時中止していましたが、４月から再開しています（お申込みは hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp まで）。

センターの刊行物

平成22年４月から９月までに、この『センターだより』33号のほか、次の刊行物を発行しました。

●「北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2009（平成21年度）」（６月発行）

●企画展図録「アイヌ語地名を歩く　山田秀三の地名研究から　2010・小樽／せたな」（８月発行）

- 『年報』『センターだより』は、当センターのホームページからもご覧いただけます。
- 企画展図録は、草風館（047-723-1688）から販売（￥250、本体価格）しています。

平成22年度前半の動き

■人事短信（４月１日付）

（転入）	副　所　長	下斗米哲明
（転出）	副　所　長	近藤　　隆
	総務課主任	石井　修子
（発令）	研究主幹	古原　敏弘
	研究課長	小川　正人

■外部行事等

- 登別市教育委員会「アイヌ文化講座～学んでわかるアイヌ文化」：「アイヌの歴史（近代以降のアイヌの歴史について学ぶ）」（登別市のぼりべつ文化交流館カント・レラ／７月／講師：小川）
- 北方民族博物館「平成22年度第１回北方民族博物館資料収集評価委員会議」（札幌市　ホテル札幌ガーデンパレス／９月／出席：甲地）

アイヌ民族文化研究センターだより　№33
編集・発行　北海道立アイヌ民族文化研究センター
2010年９月30日
〒060-0003 札幌市中央区北３条西７丁目１番地　緑苑ビル１Ｆ
（北海道庁緑苑ビル庁舎）
電話 011-272-8801(代)　FAX 011-272-8850
月～金／9:00～17:00（土・日・祝日／休）
URL　http://ainu-center.pref.hokkaido.jp
E-mail　hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp

この広報紙は、環境に配慮した用紙を使用しています（古紙配合率100%、白色度70%）。